

## 福島県南相馬市への職員派遣について

### 1 経緯

牧之原市は東日本大震災により津波被害や福島第1原発事故による放射能被害が発生した福島県南相馬市に対し、徳洲会の紹介による南相馬市の支援要請に基づき、榛原総合病院の構成市町である吉田町と協力して、当時南相馬市で著しく不足していた軽油と灯油の支援を行った。

また、4月には市長が南相馬市を訪問し、櫻井市長を激励すると共に更なる支援や友好関係を確認したほか、11月に市長、市議会、行政連絡会が同市を訪問し、櫻井市長との懇談や仮設住宅での避難者との意見交換会を実施している。

### 2 南相馬市からの人的支援要請

南相馬市では、震災による被災者対応や復興に向け復興計画の策定に取り組む一方、市内全域の公共施設や田畑の除染事業の発注が始まるなど、膨大な事務事業が山積している。

現有の職員では到底こなせる事務量でないことから、全国市長会を通じて人的支援の要請を行っているが、要請に見合う支援回答は得られていない。

このことから、支援や善意を寄せている牧之原市に直接支援要請がされる。

<派遣要請職員の職種及び派遣期間>

【職種】 一般事務（10名）、土木技師（15名）、保健師（2名）

【派遣期間】 平成24年4月から平成25年3月までの1年間

現在、全国市長会に27名の派遣要請を行う中、11名の派遣回答を得ている。

- ・東京都杉並区（友好都市 人口528,000人） 8名
- ・新潟県小千谷市（杉並区と友好関係 人口38,800人） 2名
- ・富山県南砺市（防災協定締結 人口55,000人） 1名

※全国市長会からの支援でなく、独自の友好都市や防災協定締結都市からの派遣に留まっている。

### 3 牧之原市の対応

これまでの物的支援や激励訪問などを行う中で、支援できることは支援する意向を伝える中、南相馬市より直接支援要請を受けたことから、要請に応えることを検討している。

今回の職員派遣は、単なる支援で無く、第4次被害想定に基づく防災計画の策定や今後確実に起こるとされる東海、南海、東南海などの地震に対する危機管理意識の習得に役立つとともに、有事の際の職員リーダー要請にも繋がると考えている。

【参考】放射線等の状況

#### ① 牧之原市の放射線量（平成24年1月13日測定）

市内13の小中学校の放射線量は、最も高い川崎小学校で $0.084 \mu\text{Sv/h}$ （ $0.44 \text{mSv/年}$ ）最も低い牧之原中学校で $0.057 \mu\text{Sv/h}$ （ $0.3 \text{mSv/年}$ ）

#### ② 南相馬市の放射線量（平成24年1月22日測定）

緊急時避難準備区域であった27地点の測定箇所の内、最も高い所（原町区高倉公会堂付近）で $2.23 \mu\text{Sv/h}$ （ $11.74 \text{mSv/年}$ ）最も低い所（原町区下渋佐）で $0.1 \mu\text{Sv/h}$ （ $0.526 \text{mSv/年}$ ）従事することとなる南相馬市役所は $0.42 \mu\text{Sv/h}$ （ $2.21 \text{mSv/年}$ ）である。

なお、緊急時避難準備区域は福島第一原発の原子炉施設の安定的な冷却対策が達成できたとして、9月30日に解除され、区域内の学校や病院の入院診療が再開された。

※ 文部科学省が示す福島県内の学校グラウンドの利用判断基準 $3.8 \mu\text{Sv/h}$ （ $20 \text{mSv/年}$ ）、目標値 $0.19 \mu\text{Sv/h}$ （ $1 \text{mSv/年}$ ）